



情報革命で人々を幸せに
～技術の力で、未来をつくる～

SoftBank
Technology

ソフトバンク・テクノロジー 株式会社

第2四半期株主通信

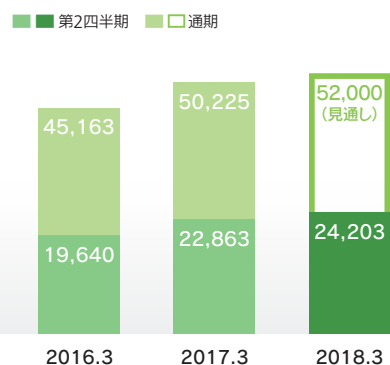
2017.4.1－2017.9.30

証券コード：4726

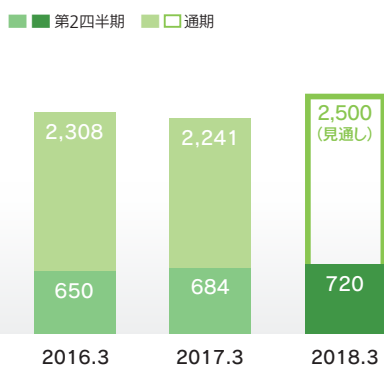
FINANCIAL HIGHLIGHT 決算ハイライト

- クラウド開発、運用・保守サービス案件が増加し売上高伸長
- 人員増により固定費は増加するも、限界利益率の改善により営業利益は増益

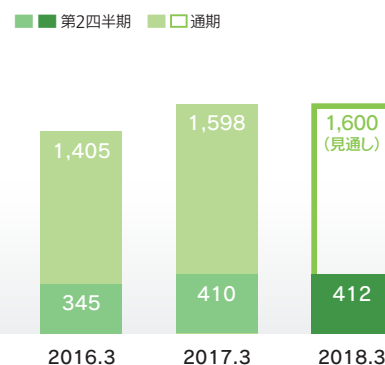
売上高 (百万円)



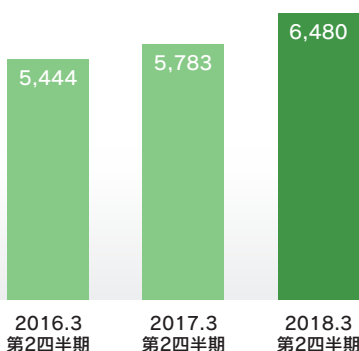
営業利益 (百万円)



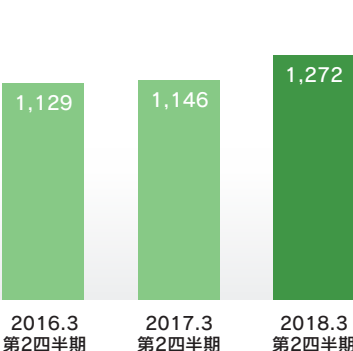
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



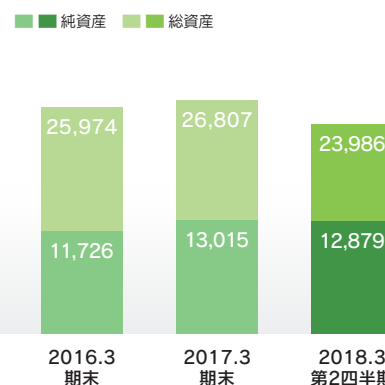
限界利益※1 (百万円)



EBITDA※2 (百万円)



純資産／総資産 (百万円)



※1 限界利益は「売上高－変動費(売上とともに変化する商品仕入や外注費、物流費等)」で算出

※2 EBITDAは「営業損益＋減価償却費＋のれん償却費」で算出

TOP MESSAGE

トップメッセージ

代表取締役社長 CEO

阿多 親市



IoT時代に最も必要とされる お客様のビジネスパートナーへ

株主の皆さまへ

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第30期（2018年3月期）第2四半期の事業の概況や今後の取り組みについてご説明させていただきます。

低利益率の機器販売ビジネスを見直し クラウドビジネスが増収増益を牽引。

当第2四半期は、売上高、各利益、EBITDAすべてで前年同期を上回りました。サービス別では、サーバー機器販売の利益率が大幅に低下したプラットフォーム事業は、撤退商材を厳格に設定し、利益率改善を図る方向へ見直し、減収となりました。一方で、注力しているクラウドシステム事業の売上高が74億円(前期比38.3%増)となり、業績を牽引しました。形態別ではソフトバンクグループ向けシステム開発、公共分野の開発・運用保守が順調に拡大し、顧客別ではエンタープライズ（企業・官公庁・自治体）向けのビジネスが大きく伸びました。

第1四半期に発生した自治体セキュリティクラウド案件の追加対応等による負担増も運用フローの効率化・体制整備により収束化できました。この経験により、公共ノウハウとプロセス資産が蓄積され、ビジネスの深耕、エンタープライズ展開への活用基盤ができたと認識しております。

また、2017年7月から8月にかけて、情報セキュリティのインシデント対応により、ビジネスに停滞期間が発生しました。不正アクセスによる情報流出の事実は確認されませんでしたが、多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

通期業績は売上高520億円(前期比+3.5%)、営業利益25億円(同+11.6%)を計画しております。

クラウド活用は次のステージへ。 IoT戦略も着実に進行中。

2016年4月より、「クラウドへの集約」「IoTビジネスの開発」に取り組んでおります。

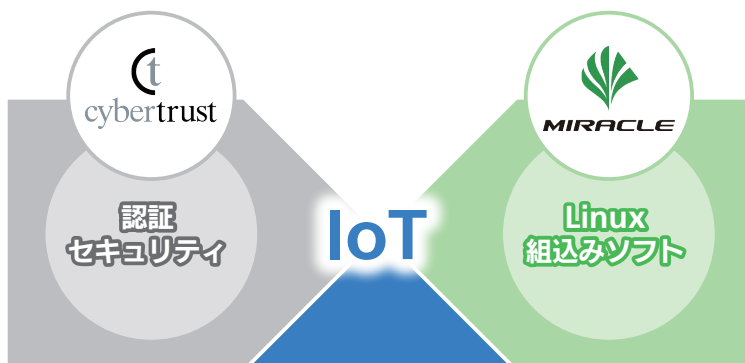
「クラウドへの集約」では、メールやユーザー認証のシステムのクラウド化を済ませたお客様向けに、前下期より、クラウド上で提供される顧客管理サービス「Dynamics 365」のコンサルティング・開発・移行作業等をスタートさせました。今期から来期にかけ、収益の大きな柱になってくると見込んでいます。お客様とは、これら情報システムのクラウド化に加えて、ビッグデータの解析やセキュリティの運用まで包括的な支援をお任せいただけるように事業を進めてまいります。

「IoTビジネスの開発」は、海外展開を視野に入れ、日本が誇る製造業の領域でジャパンプオリティのIoTの確立を目指してまいります。また、すでに200億以上のIoT機器がインターネットに繋がる時代となりました。機器の高性能化に伴ってプログラムのコード量も増加し、セキュリティの穴が後から見つかるというリスクも増えてきます。こういった課題をいかに解決していくか、ここに次なるビジネスチャンスを見出しております。

引き続き、社員の働き方改革と合わせ、一人ひとりの技術の力で新しい付加価値を創出する組織を目指してまいります。

新生サイバートラストの誕生

2017年10月1日、セキュアで豊かなIoT社会の実現を目指し、子会社のミラクル・リナックスとサイバートラストが合併しました。両社は2016年よりIoTの事業において協業を開始し、現在はグローバル市場を見据えたIoT事業の強化に注力しています。インターネットに繋がる機器の製造から廃棄までの一連のサイクルでセキュリティの管理を提供し、メーカーやユーザーに貢献してまいります。



IoT関連事業を中核とした企業へ

これからのIoT社会のセキュリティを支える「セキュアIoTプラットフォーム®」

今後増え続けるIoT機器のセキュリティリスクの対策として、サイバートラストのセキュアIoTプラットフォーム（SIOTP）をご紹介します。SIOTPはインターネットに繋がる機器のチップ設計の段階から製造、廃棄までのライフサイクル全体を一貫してセキュアに管理することができます。メーカーやサービス提供者はライフサイクル全体の安全性が確保された環境で、IoTの機器やサービスを提供することができます。SIOTPはこれからのIoT社会のセキュリティを支える重要なインフラになると確信しており、ソフトバンク・テクノロジーグループはSIOTPを基本戦略としたIoTビジネスを展開してまいります。



取締役 兼
サイバートラスト(株)
取締役上級副社長
眞柄 泰利



Secure
IoT Platform



ライフサイクルを通じた一貫通貫のセキュリティを実現

半導体製造



機器生産



出荷 / 起動



サービス運用



廃棄



導入事例

ミツフジが提供するウェアラブルIoTブランド「hamon®」へ導入

ミツフジ（株）が提供する「hamon®」は着用者の心電、心拍、活動量などの日常の生体情報をモニタリングし、着用者の健康管理などに利用することができます。こういった生体情報を安全に活用するために、サイバートラストのセキュアIoTプラットフォームが採用されました。2018年夏頃のサービス提供開始を目標に、現在、両社でIoT機器と提供サービスの開発を進めています。



生産性向上の取り組み～SBT流の働き方改革～

Q これまでの取り組みと成果は？

A ソフトバンク・テクノロジーでは、クラウドを活用した働き方改革をお客様に提案し、社会全体の課題解決に貢献しています。私たち自身も「生産性の向上」をテーマに、社員のスキルアップや職場環境の改善、柔軟な働き方を実現する制度とクラウドの活用に取り組んでいます。2016年度は、月の全社平均残業時間を約11時間削減（41→30時間/月）しながら、過去最高の売上高を達成しました。

Q どのように推進しているのですか？

A 2017年度も、25時間/月を目標とした長時間労働の是正をはじめ、様々な取り組みを進めています。特に、生産性向上の実現には社員がリフレッシュできる仕組みや環境が不可欠だという信念があります。「しっかりと休みを取れること」を意識して、プロジェクト（PJ）コンプリート休暇やフレックス勤務・有休奨励・プレミアムフライデーを組み合わせた独自運用など、制度の利用率向上にも全社一丸で取り組んでいます。



執行役員
人事本部長

正岡 聖一

主な施策



施策一例と社員の声

十分休みが取れるので
仕事への意欲が高まる

時間が有効に使えて
営業としては助かる

PJコンプリート休暇

PJ期間中に業務負荷が集中してしまう部門に向けてPJコンプリート休暇を新設。PJ終了後、5日間の連続休暇を付与することで、メリハリをつけて働ける環境づくりを目指しました。

Web会議、モバイル活用

クラウドを活用し、外出先から安全に社内システムの利用や会議ができる環境を用意。外出中の空き時間などを活用できるように整備し、残業時間の削減を目指しました。

特別企画「社外取締役インタビュー」

当社グループは、「情報革命で人々を幸せに ～技術の力で、未来をつくる～」を理念として掲げ、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指しています。適切な意思決定と監督機能の強化の役割を担う社外取締役2名に取材し、「①社外取締役としての役割」「②当社の強み」についてうかがいました。



社外取締役

鈴木 茂男

1954年生まれ。1990年㈱神戸製鋼所入社。1994年コベルコシステム㈱出向 ネットワーク事業本部部長代理。2001年ソフトバンク・コマース㈱※1入社、アリババ事業部執行役員。2003年ソフトバンクBB㈱※1 転籍、流通事業本部副本部長。2005年ネクストコム㈱※2 入社。第六事業本部長を経て、同社取締役 常務執行役員に就任。2016年6月より当社社外取締役（現職）。

※1 現ソフトバンクコマース&サービス㈱

※2 現三井情報㈱

①決定プロセスを重視

定期的に開催される取締役会での議論、決議に加え、各取締役や幹部社員との面談を毎月実施しています。

その中では当社の課題や将来の成長に向けた方針戦略の議論を活発に行っており、議論は方針・戦略の妥当性に関する事は勿論の事、決定に至るプロセスが会社法その他の法律、定款や社内規定に準拠した方法で進められているか等、独立した立場で意見を述べ、弊社の健全な発展に寄与できる様努めてまいりました。

②スピード感ある企業体質

当社の強みは成熟したEC事業とソフトバンクグループ事業、成長分野であるクラウド事業、IoT事業への取り組みに於けるバランスの取れた経営資源の配分とソフトバンクのDNAとなっているスピード感の有る企業体質に有ると考えています。

収益基盤となっている事業はコストの最適化や自動化など継続的な収益向上に向けての改善がなされ、また成長分野に於いてはいち早くIoT、AI等世界最先端のICT技術の習得を行うと共にグローバルIT企業との協業など技術動向や市場の成長を見据えた的確な戦略の策定とその遂行を確実に進めています。

①社外取締役として異なる視点からの戦略俯瞰

大きく2つの視点で経営に参画しています。一点目は、スピード感をもって経営の意思決定をする中、正しいプロセスで意思決定をしているのかという点です。いち早く市場や顧客の要求に応えようとする時でも、きちんとしたプロセスを実施して意思決定することが重要なポイントだと思います。二点目は、成長戦略の妥当性について多角的な視点で判断するという事です。私の個人の事業経験を通して、SI事業者とは異なる視点で戦略をみる事で、戦略の策定や実行に関して新しい気づきと可能性を提示する事が大切ではないかと考えます。

②明確な戦略が成長を牽引

当社の強みは、阿多社長のリーダーシップに基づくスピード感を持った経営と明確な事業戦略、その実行を支える経営陣・マネジメント層のリーダーシップ、そして社員の皆様の戦略を実行する職務遂行能力の高さだと思います。具体的には、市場や顧客の要求をいち早く経営戦略・事業戦略に落とし込み、現場での業務の実行が可能のように戦略を社内に展開する事ができている事だと思います。オープンで風通しの良い社内のコミュニケーション文化が、これらを支えていると考えます。



社外取締役

宗像 義恵

1958年生まれ。1981年大日本印刷㈱入社。1983年インテルジャパン㈱※入社。コミュニケーション製品事業本部長、社長室長経営企画・政府渉外担当、事業開発本部長などを経て、2009年取締役副社長に就任。2016年同社顧問。同年ビーグローブ㈱設立 代表取締役に就任。2017年6月より当社社外取締役（現職）。

※ 現インテル㈱

グループ企業のTOPICS

ソフトバンク・テクノロジーグループ初の女性社長誕生

2017年4月、フォントワークスの代表取締役社長CEOに、原田 愛が就任しました。フォントワークスのデジタルフォント（書体）は、スマホやゲーム機、電子書籍リーダー、車載機器メーター、カーナビなどに利用されています。文字を利用する場所は紙からディスプレイに変化し、現在は空中もがスクリーンになる進化を続けています。またデジタルフォントは当社グループが推進するIoTビジネスにも必要不可欠な技術となっています。

新体制になり世界最大のフォントメーカー Monotype Imaging Inc.との業務提携も締結し、今後は活躍の場をグローバルに広げてまいります。



フォントワークス(株)
代表取締役社長CEO

原田 愛

CORPORATE DATA / SHARE INFORMATION 会社情報／株式情報

会社概要

(2017年9月30日現在)

商号	ソフトバンク・テクノロジー株式会社
本店所在地	東京都新宿区新宿六丁目27番30号
事業内容	ICTサービス事業
ホームページ	http://www.softbanktech.co.jp/
資本金	819百万円
従業員数	連結978名

役員

(2017年9月30日現在)

代表取締役社長CEO	阿多 親市	常勤監査役(社外)	上野 光正
取締役	佐藤 光浩	監査役(社外)	廣瀬 治彦
取締役	後藤 行正	監査役(社外)	中野 通明
取締役	眞柄 泰利	監査役	三村 一平
取締役(社外)	鈴木 茂男		
取締役(社外)	宗像 義恵		

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金基準日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL.0120-288-324(フリーダイヤル)
上場取引所	東証第一部(コード番号 4726)
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による掲載ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 http://www.softbanktech.co.jp/

お知らせ

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（みずほ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
(特別口座管理機関 連絡先)
三菱UFJ信託銀行 証券代行部
TEL.0120-232-711 (フリーダイヤル)
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行本支店、みずほ銀行本支店およびみずほ証券本支店でお受けいたします。

株式の状況

(2017年9月30日現在)

発行可能株式総数	85,121,600株
発行済株式の総数	21,882,800株
株主数	6,312名

大株主

(2017年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ソフトバンクグループ インターナショナル合同会社	10,735,000	54.82
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	1,080,200	5.52
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	442,700	2.26
石川 憲和	240,000	1.23
BBH BARCLAYS BANK PLC, JERSEY BLANCH NON TREATY	180,000	0.92

※持株比率は、自己株式(19,581,558株)を除外して計算しています。

所有者別持株比率

(2017年9月30日現在)



ソフトバンク・テクノロジー 株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目27番30号 新宿イーストサイドスクエア 17階	
TEL	03-6892-3050 (代表)
URL	http://www.softbanktech.co.jp/
お問合せ先	経営企画本部 経営企画部
MAIL	sbt-ir@tech.softbank.co.jp



※記載されている会社名、ロゴ、製品名等は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
※本紙では、フォントワークス(株)のフォント「ニューロダン」を使用しています。
Copyright© SoftBank Technology Corp. All Rights Reserved.